

第3子の祝金の増額の考えは

内田精彦 議員

町長 検討すべき課題で十分検討します



問 横田中学校通学路、川西五反田線は、最大10%の勾配区間があり積雪時、凍結時には滑りやすく非常に危険であるがこれらの場所の滑り止め対策は施されているのか。

答 特段の滑り止め対策はおこなっておりません。生徒のみなさんの注意に期待したい。危険があるというをよく認識した上で、危険防止の行動をどうとっていかたいかということも教育上必要だと思っ

ている。

問 この通学路約1千300メートル区間の防犯灯、街路灯は21基で、うち歩道側に10基、反対側に11基であります。反対側の防犯灯の一部は歩道側に光が届かない場所があるが、これらを把握しているのか。

答 学校側からの問題点の指摘とか、PTAの方からの増設要望は出ておりません。あればそれなりに検討します。

問 もみじの里づくり事業により5千万円で、5千本植栽されてから5年がたとうとしておりますが、この事業の効果を検証されたのか。結果はどうであったのか。

答 この事業は、もみじが町の木として町民の皆様

に認識をしていただき、それぞれ植栽されたもみじが愛着をもって育てていただいているものと考えており、本町の将来にわたる景観づくりにも大きな効果があると期待している。まだもみじも小さく、効果を検証するにはもう少し時間を要するものと考えている。

問 平成21年9月議会の答弁でもみじの木の植栽本数を確認した上で公表すると答弁されたが、その後確認されたのか。植栽本数の内訳は。

答 町が植栽した部分も含め現地調査をしたところでは、植栽から4年半以上が経過し、すでに枯れて欠如した箇所もあり、正確な数が確認できないまま、今日まで数の確認と公開はおこなっておりません。人手間もかかります。確認だけでも相当な経費がかかると思っております。今後の検討課題とさせていただきます。

問 出産祝い金支給制度における商品券10万円の概要は、23年度の支給者数は。

答 若月子育て支援室長目的といたしまして、町の宝である子供の出生を祝うものであること、その子供たちの健やかな成長と、子育てを行う保護者を支援するもの。出産祝い金は期限つきの商品券で町内どこでも使えるものです。23年度の対象者数は74名です。

問 この出産祝い金の財源はどうか。

答 藤原企画財政課長 この財源は過疎債で、70%が後年度交付税算入されますので、予算の800万円でききすすと7割が交付税残り3割が町の実質負担となり240万円です。

問 奥出雲町の少子高齢化比率は24年10月末で36.22%で、毎年増えております。出生率につきましては、合計出生率は、1人の女性が一生の間に産む子供の数をあらわしたもので一人の女性が2.08人産まないとい人口は減少する計算になります。平成23年度全国の合計出生率は1.39人で、鳥根県は1.61人。最高は沖縄の1.86人。最低は東京都の1.06人。このことからしても2.08人にはほど遠い数字であります。第3子の支援策の拡充として祝い金制度の増額を望むが。

答 子供はまさに地域の未来であり、財源は何かと工面してでも、検討すべき課題とされているので、十分検討します。